

2025年度 第36回 川崎市学童軟式野球大会

開 催 要 項

- 1.主催・主管 川崎市学童野球連盟
- 2.協 賛 川崎ケーブルテレビ協議会 イッツ・コミュニケーションズ株式会社
YOUテレビ株式会社
株式会社 ジェイコム 湘南・神奈川 町田・川崎局
セレサ川崎農業協同組合
株式会社共同写真企画
- 3.後 援 川崎市
川崎野球協会
東 京 新 聞
ナガセケンコー株式会社
ローリングスジャパンLLC
- 4.開 催 目 的 学童軟式野球を通じて、スポーツマンシップに基づいたフェアプレー精神を養い、学童の健全育成と体力の増進を図ることを目的とする。
- 5.開 催 日 程 2025年9月13日（土）～10月18日（土）
開会式：2025年9月27日（土）
決勝戦・閉会式：2025年10月18日（土）
予備日：2025年10月19日（日）
- 6.会 場 等々力球場、御幸公園球場、大師少年野球場
多摩スポーツセンター野球場、瀬田少年野球場、片平少年野球場、
他川崎市内の少年野球場
- 7.大会の種類 大会は、単独の部、連合の部、シスターの部、ジュニアの部、
親子ふれあいトスベースボール大会とする。
※親子ふれあいトスベースボール大会の詳細は、
川崎市親子ふれあいトスベースボール大会開催要項を参照
- 8.試 合 方 法 トーナメント戦とする。
- 9.出場チーム資格
 - (1) 2025年4月1日現在、各区単位連盟(以下、地区連盟という)に所属するチームであり、かつ全日本軟式野球連盟および川崎市学童野球連盟に登録した小学年齢層の野球チームとする。
 - (2) 単独の部に出場するチームは、地区連盟の大会結果等により、地区連盟から選考されたチームとする。
単独の部出場チームに所属する選手は、連合の部、ジュニアの部には、登録できない。
 - (3) 連合の部に出場するチームは、地区連盟に所属するチームから選考された6年生の選手で、地区連盟が編成した「臨時的チーム」とする。
単独との二重登録は出来ないものとする。
 - (4) シスターの部は、地区連盟に所属するチームから選考された女子選手で、地区連盟が編成した「臨時的女子選手チーム」とする。
単独の部との、二重登録を認める。
 - (5) ジュニアの部は、地区連盟に所属するチームから選考された5年生以下の選手で、地区連盟が編成した「臨時的チーム」とする。
単独との二重登録はできないものとする。
 - (6) チーム構成は、各部とも監督1名、コーチ2名、選手10名以上25名以内の男女とする。（シスターの部の選手は、女子のみ）

監督、コーチは、18歳以上の成人者とする。

10. 出場チーム数

単独の部は、各地区3チームとし、前年度成績（優勝、準優勝）により各1チーム、連盟推薦で1チームを加算

連合の部は、各地区1チームとし、前年度成績（優勝）により1チーム加算

ジュニアの部は、各地区1チームとし、前年度成績（優勝）により1チーム加算

	川崎区	幸 区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	合 計
単 独 の 部	3	3	3	4	5	3	3	24
連 合 の 部	1	1	2	1	1	1	1	8
シスターの部	1	1	1	1	1	1	1	7
ジュニアの部	1	1	1	2	1	1	1	8

11. 参加申込み方法

所定様式のチーム登録名簿に必要事項を記入・捺印し、1部を監督主将会議の時、受付に提出する。

チーム登録名簿(電子データ)を所定の期日までに各地区副事務局長に提出する。

大会参加費は、9月末日までに市学童指定口座に振り込む。（振込手数料は各区連盟負担）
(1チーム 12,000円)

12. 監督主将会議

本年度の監督主将会議は下記により行う。

- ① 開催日時 2025年9月14日(日) 18時開催
- ② 場 所 高津市民館 大会議室
- ③ 出席者 参加チームの監督とユニフォームを着用した主将の2名とする。
- ④ 抽選結果 連盟ホームページに掲載する。

13. 適用規則類

- (1) 公認野球規則 2025年版野球規則
- (2) 競技者必携 2025年版（全日本軟式野球連盟）少年野球に関する事項
- (3) 大会規則 川崎市学童軟式野球大会 特別規則（県学童部版準拠）

14. 試合球 ケンコーボールJ号（大会本部で用意する）

15. 開会式

- (1) 開催日時・2025年9月27日（土） 午前8時
- (2) 場 所・等々力球場
- (3) 単独・連合・シスター・ジュニアのチームは、参加のこと。

16. 表彰式

- (1) 単独の部・連合の部
 - ① 表彰対象チーム：優勝、準優勝
 - ② 優勝、準優勝チームの表彰式は、単独の部の決勝戦終了後、単独の部、連合の部と一緒に開催する。
- (2) シスターの部
 - ① 表彰対象チーム：優勝、準優勝
 - ② 表彰式は、シスターの部の決勝戦終了後に開催する。
- (3) ジュニアの部
 - ① 表彰対象チーム：優勝、準優勝
 - ② 表彰式は、ジュニアの部の決勝戦終了後に開催する。

※全大会第3位表彰は行わない。

17. 閉会式

単独の部・連合の部の優勝、準優勝チームの表彰式の後に開催する。

川崎市学童軟式野球大会 特別規則

川崎市学童軟式野連盟

1. 大会適用規則

本大会は、最新の公認野球規則・(財)全日本軟式野球連盟の競技者必携の中の学童部に関する事項及び大会特別規則を適用。

2. 大会特別規則

- (1) 試合は6回戦とし、試合開始の「プレイ」宣告後、90分を経過したらそのイニングを最終回とする。
(注) 決められた時間が経過したら、回数に関係なく正式試合とする。
(注) 6回終了時同点か決められた時間が経過して同点の場合はタイブレーク方式を1回のみ行い勝敗を決定する。
それでも決まらない場合は抽選で勝敗を決定する。
抽選は、○×式とし、○印の多いチームを勝ちとする。
(注) 勝ってる後攻のチームが攻撃中で時間が経過した場合は当該打者の打席終了で打ち切る。
- (2) 得点差によるコールドゲーム
得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差・4回以降7点差とする。
(決勝戦も採用する)
- (3) 試合の成立と継続試合
試合の成立を4回とする。
試合が成立後に同点で中止になった場合は抽選で勝敗を決定する。
試合が成立前に中止になった場合は再試合を行う。
ただし、再試合となった場合以後の試合日程から、1日2試合を行う場合がある。
- (4) 投球数制限
投手の投球については、肘、肩の障害防止を考慮し、1人の投手は1日70球以内を投球できる。継続して70球に達した場合、その打者が打撃中に攻守交代となるか、打撃を完了するまで投球できる。
ボークにもかかわらず投球したものは投球数とする。
また1日に継続試合後のダブルヘッダーを行う場合
1日で70球以内であれば引き続き投球することができる。
*シスターの部も1日70球の投球数制限を適用する。
*4年生以下の投手は1日60球とする。

3. 打順表と攻守の決定

- (1) チームは会場到着後速やかに打順表を5通(登録された全員を記入し、必ずふりがなを付け)を監督が大会本部に提出する。
第1試合のチームは、試合開始時間の30分前の攻守決定に。第2試合以降は2回終了時の攻守決定に間に合う様にする事。
球審立会いのもとに攻守を決定する。
攻守決定後グラウンド内のブルペンで、先発投手のみ投球練習を行っても良い。
(注) 前の試合が早く終了した場合は、次の試合を試合開始予定時刻前に開始しますので、試合の進捗状況を必ず確認すること。
(注) 打順表4年生以下の選手には○印を付けること。
- (2) ベンチは、組合せ番号の若いチームを一塁側とする。
試合のベンチには、登録名簿記載の監督・コーチ・選手・チーム代表・マネージャー・スコアラー・有資格のトレーナー・熱中症対策の給水係(ビブス着用の保護者2名)がベンチに入ることができる。
(チーム代表・マネージャー・スコアラー・給水係はチームの帽子を着用し、ふさわしい服装でベンチに入る事。ユニフォームやスパッツに短パン・スカート・サンダル等は不可)

4. 使用球と用具・装具

- (1) 使用球は連盟公認のナガセケンコーボールJ号とする。
- (2) チームはユニフォーム、アンダーシャツ等は、同色、同形、同意匠の物を使用すること。（連合チームは、背番号を同色、同形、同意匠とすること）
但し、スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。
裾幅の広いストレートタイプやロングタイプのズボンは大人含め禁止する。
- (3) バットは、市学童大会使用可能なバットに限り使用できる。
- (4) 捕手の装具は、SGマーク付連盟公認のマスク・SGマーク付捕手用ヘルメット・プロテクター、レガース、ファウルカップを必ず装着すること。
（予備キャッチャーもファウルカップを準備すること）
（女子選手については装着が望ましいが任意とする）
- (5) 打者、次打者、走者、ベースコーチは、SGマーク付全軟連公認の両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着帽すること。

5. シートノックは全会場全試合前に5分間ずつ行う。
（補助員は大人、選手ともにヘルメット着用すること）

6. その他の取り決め事項

- (1) ベンチ内でのスコア専用の電子機器1台の持ち込みは認めます。
それ以外の電子機器類（スマートフォン・パソコンなど）は持ち込みを禁止する。
メガホンは、ベンチ内に1個に限り許可する。
- (2) いかなる場面でも、ベンチ内の大人が選手を萎縮させるような言動を禁止する。
応援席からの相手選手への同様の言動も禁止する。
投手が投球態勢に入ったら無用な声は出さないこと。